

日本学術会議「科学教育研連シンポジウム

“科学のための科学”を基盤にした“社会のための科学”に向けた新世紀の科学教育

主催 科学教育研究連絡委員会 委員長 木村 捨雄

主題 科学のための科学”を基盤にした“社会のための科学”に向けた新世紀の科学教育

日時 平成16年3月16日(火) 13:30~16:30

場所 日本学術会議 2階大会議室(予定)(東京都港区六本木 7-22-34)

(営団地下鉄「千代田線」乃木坂駅下車 5番出口 徒歩2分)

趣旨 日本学術会議の「日本学術会議のあり方について」において記述されているように、日本学術会議に求められてる機能の一つとして「社会とのコミュニケーション機能」がある。今日の科学技術の成熟した社会にあって 社会におけるあらゆる場面で科学リテラシーの重要性が痛感される。安定した、安心できる社会を維持していくためには、このような社会を支えている根底にある科学技術の基礎となっている知識、考え方を社会の知的資産として均しく共有すべきものとする。我々はこれまで科学が”科学のための科学”としてその発展を希求してきたことから脱皮し、新しい時代へむけて“社会のための科学”と捉え直そうとしている。科学教育はこのような社会を構築するために重要な基盤を担っている。

本研連では、これまでに、科学とは何か、科学教育とはなにか、科学リテラシー、学力低下問題、理科離れ、科学教育課程などについて、議論を重ね随時その成果を公刊してきた。しかしここにおいて、改めて科学教育の将来のあり方を考えた時、これまでの伝統的な学校教育の理科教育は“科学のための科学”に偏りすぎていたことによって諸々の問題を起こしてきたことに思いを致すに至った。このような反省に、加えて、欧米先進国の高度な科学教育への改革から見て、わが国の理科・数学教育課程の編成が遅れをとっているとの批判を受けている。われわれは科学を”社会のための科学”と改めて捉え直すことにより、上記のテーマに基づいて新たな科学教育を打ちたてようとするシンポジウムを計画した。

すなわち、“社会のための科学”においてその目標とすべき事柄を明確にする。そこには、科学に関する基本スタンス、理念、資質能力などについて論ずる。このシンポジウムを通じて、議論を深化させ、その内容、教育方法へとつなげていく。

第1回(3月16日) 科学のための科学”を基盤にした“社会のための科学”に向けた新世紀の科学教育講演とシンポジウム 13:30~16:30

挨拶

木村 捨雄(名城大学)

1.シンポジウムの趣旨 Science for Science と Science for Society と科学教育

木村 捨雄(名城大学)

<講演とシンポジウム>

(司会 波田野 彰 帝京大学)

2.講演 日本のこれまでの科学教育とこれからの科学教育

大木 道則(東京大学名誉教授)

日本のこれまでの数学教育とこれからの数学教育

飯高 茂(学習院大学教授)

3.提案

(1)科学リテラシーと人材育成の戦略的な科学技術教育政策

小川 正賢(神戸大学発達科学部)

(2)新世紀(近未来社会展望)の科学・技術教育課程および教育内容

渡邊 政隆(科学技術政策研究所)

4.総合討論

(司会 川上 昭吾 愛知教育大学)

科学教育研連各学会のコメンテータからの提案・討論